

令和5年度福岡市農林業振興審議会

- 1 開催日時 令和5年11月29日（水）10：00～
- 2 開催場所 T K P エルガーラホール7階会議室1（対面及びオンライン併用開催）
- 3 出席者 福岡市農林業振興審議会委員 20名（別紙委員名簿参照）
柴田会長、藤野会長職務代理者（オンライン）、矢部委員、
岡安委員（オンライン）、野村委員（オンライン）、
三成委員、丸小野委員、加藤委員（オンライン）、秋元委員（オンライン）、
溝上委員（オンライン）、宇都宮委員（オンライン）、
津田委員、淀川委員、たのかしら委員、小竹委員、倉元委員、
中村（光）委員、横田委員、中村（敏）委員、田代委員
欠席 2名
田中委員、笠委員
市側 農林水産局長外 9名
姉川農林水産局長、中牟田総務農林部長、光益中央卸売市場長、
重総務課長、永田農業振興課長、
松本課長（イノシシ等地域営農対策担当）、
野見山森づくり推進課長、古川農業施設課長、梶原市場課長、
生野青果市場長
- 4 傍聴者 0名
- 5 次第
 - 開会
 - 委員紹介
 - 議題（1）会長及び会長職務代理者の選出について
（2）農林業を取り巻く情勢 農林業総合計画に基づく取組み
（3）意見交換 テーマ「スマート農業の推進」
 - その他 各委員からの情報提供
 - 閉会
- 6 議事
議題「農林業を取り巻く情勢 農林業総合計画に基づく取組み」（農業分野）について事務局より説明

【会長】

ご説明ありがとうございました。それでは今の事務局の説明を踏まえて、皆さん方が日ごろからお考えになっていることをご意見いただければと思っておりますのでご発言をよろしくお願いいたします。

【委員】

説明にあったように、国も、福岡市も、農業従事者や農地面積がともに減り続けていることを市民として、非常に心配しています。

また、国においては食料自給率もカロリーベースで38%に留まっている。今、戦争や気候変動で、世界的に食料危機であり、これからますます食料が入るのが心配しています。

食料は、今までの農政を見ても、食料は外国から輸入すればよいという側面があったが、そういう時代は終わったと私たちは認識する必要があると思います。福岡市に求めたいのは、食料自給率の向上のために主としてやれることをすべてやって欲しい。そのために、農業に従事していただく方々を増やしていく、増やすために所得を増やしていく必要がある。グラフにもありましたが、今の農業所得ではなかなか従事する人が増えないのではないかと思います。

本来的には国がやるべきところではありますが、国がやれないところを補完する意味でも福岡市として価格保障や所得補償をしていただきたい。直接農家にお金が入る施策を抜本的に充実させる必要があると思います。

これまで農家の人たちの自助努力に委ねられてきている部分があるので、この考え方を根本的に変えていく。例えば、今やっている施策をさらに充実させていく、それから新たな施策を創設していくということが大事で、今、急激な円安それから物価高騰で肥料、飼料、資材、燃油、こういったものの価格が高騰して農業従事者の経営・暮らしを圧迫していると聞いています。福岡市も補正予算を組んで畜産に対する補助をしているが、今大変な状況なので、こういう緊急対策の対象をもっと広くし、金額もやはり増やしていかないと続けられない。

将来に対する不安が募るばかりなので、農業従事者に対する支援をもっとしていく必要があると思います。施策の充実、それから農業従事者の所得を増やしていくという施策、そのためには予算が45億円くらいでいいのかと思います。今までの食料をめぐる情勢は変わってきているので、抜本的に福岡市としても予算を増額していく、それから市から国に対して農業予算の増額を要望したいと思います。

【農業振興課長】

ご指摘のありました食料安全保障、それから農家所得の向上、そういったところの施策の拡充のための予算確保について、今、全国的にも農業が厳しい状況ではありますが、その中で生産性を高め、農業の維持、持続可能な農業を実現していきたいと考えております。

福岡市においても様々な国の施策も活用しながら予算確保に取り組んでまいりたいと考えております。

【委員】

私からも要望をさせていただきたいと思います。

41 ページから 42 ページに記載されている農産物の安定的な供給の確保や販路の拡大、それから今年度はブランド化に取り組んでおられるが、今、海外の方がたくさん福岡市にも来られている状況がありますので、そういった方々に対して販路を拡大していく。

例えば、イベントがあったらそこに来ていただけるような周知をしていただきたい。また、海外から来られている方は、多少高くても買われるという傾向があると思うんです。そういった方々に売っていくということはすごく大事なことだと思っています。それは、強いて言えば農家の方々の所得を上げていくことに対しても有効なことだと思っています。

なので、販路の拡大、販売、特に海外の方に対する販売という面でしっかりと強化し、そういった支援を今以上にしていきたいというのが私の要望です。

【農業振興課長】

販路、ブランド化といったところが海外の方向けにもっと強化できればというところですが、先ほど、市民満足度の評価をご紹介しましたが、福岡の食に対する国内外の評価は高いということも伺っています。

市内の農業の特性といたしましては、小規模なところが多いことや、福岡市の農業の様々な特性の中でも、都市型の園芸農業を中心に振興しているところではありますが、そういったところで、いかに付加価値を高くし、それを広く知ってもらい、消費まで繋げていくことが重要と思っています。

今年のブランド化の事業について、市民の方もよく知らないということから、しっかりニーズの掘り起こし、そういったところに取り組んでまいりたいと思っております。

また、地産地消のイベントのPRなども今後展開をしていければと思っております。

【委員】

3つあります。1番目は、先ほど報告されました、農業所得が低いというところがとても気になります。若者に農業について関心をもってもらう。そのためにはアグリDXについて、中学生・高校生からでも教育をして、継続・持続できるようなシステムを是非作っていただきたいと思います。

そのためには、若者を育てるということを少し予算化して欲しいです。農業をされている方のお子さんもそうですが、将来農業をしたいと思う若者に対し、大学の学費を支援するなど考えていただきたいです。

2番目は、福岡市の食べ物の価格は市民としては満足ですが、価格が安く、食事を作る人がハッピーでない。食べ物の価格設定を検討した方がよいかわかります。例えば、食材の知識や調理の技術があれば、「1個15円くらいの卵がオムレツになると、ホテルでは2,000円くらいの価格になる」といった食べ物の価格設定についても食育の中で俯瞰的に若者を育てることもプログラムに入れてほしいと思いました。

3番目に、森林を取り巻く状況について一言意見します。北海道東川町に調査に行った際、そこで取れた木を使った椅子を産まれた子どもにプレゼントしたり、ヒノキやスギを使った商品が売られたりしていました。福岡市でも、そういう視点で検討していただきたいです。大学でも、佐賀県の林業組合が間伐材を使って商品開発をしていましたので、お膳を作って、大学の調理・栄養の授業で使用しています。また、外食産業のレストランでも使っていただいています。そのことにより、環境に配慮したものを私たちは使っていると思っているようです。福岡市の子ども達に自信と誇りを持たせるような、見える化に取り組むことも大事ではないかと思います。

【農業振興課長】

まず、1番目のご意見にございました教育の重要性ということで、食農教育というところで学校給食等をはじめといたしまして、教育機関と連携し、行っているところですが、

今後も様々な教育機関との連携について研究してまいりたいと考えております。

2番目の物価についてですが、生産物の価格については大変難しい問題であると認識しております。作ればもっと安くなってしまうといったジレンマも抱えております。こちらにつきましては、今、国の方で基本法の改正と併せて農産物・食品の適正な価格形成について、制度化も含め検討がされているところです。こういったところにも注視していきながら、付加価値をつけ価格を高くしていくといったところも視野に入れながら取組みを考えていきたいと思っております。

【総務農林部長】

〇〇委員の2つ目のご質問、それから先ほどの〇〇委員のインバウンド向けへのPRのところを少しご説明させていただきます。

もちろん、福岡市内の農産物は非常においしいということで、そのPRということでブランド化、販路拡大に取り組んでおります。野菜等のそのもののPRというものにしっかりと取り組むとともに、福岡市は第三次産業が盛んで市内いたるところにとってもおいしいフレンチ、イタリアン、和食屋さん、居酒屋がたくさんございますので、福岡市で農家さんたちが作ったおいしい野菜、果物を飲食店でたくさん使っていただき、市民の皆さん、観光客の皆さんにもっと楽しんでいただいて、付加価値をつけて価格も高くして楽しんでいたような取組みを今後も引き続きさせていただきたいと思っております。

【委員】

私からは2点です。

今、私たちは生産者さんから消費者さんに直送する形式のサービスを運営してまして、主に都市部のお客さんが各地域の生産者さんから直接商品を買うようなサービスなんです。今回こういった機会をいただきましたので、福岡市のデータを見させていただき、何点か特徴があったところを共有しつつ、2点お話できればと思います。

今、福岡市で登録いただいている生産者さんの売上げランキングを拝見したところ、特徴的だなと思ったのは多様性です。いろんな地域のランキングも見erんですが、だいたいその特産物に売上げランキングが偏ります。例えば、たくさんみかんが売れてるなどに偏るんですが、福岡市に関しては、ランキングトップ6までにそれぞれ全然別の産品で、上からトマト、レタス、イチジク、ブルーベリー、柑橘、お魚という形で、ランキングのトップ6までが全然別のジャンルになっています。

なので、すごく多様なものがある。アンケートの中でも福岡市が住みやすいという中で、新鮮でおいしい食べ物の豊富さというものが大きく上がってますが、いろんな物が揃っているというところは特色の1つなんだと調べていて思いました。

購入いただいているお客さんの層を見たところ、福岡市、九州のお客さんは実はトップ3に入っていないくて、多くが東京だったり神奈川だったり、大阪だったり別の県からの購入です。

それを捉えると、やはり他県からでも魅力的なものが揃っている場所なのかなと感じております。

それを踏まえた上で、1つ目としては、もちろん説明の中でブランド化をしていき、そ

れを尊重するというのは既にやられているところだと思いますが、こういった多様性を押し出すための見せ方というものについて検討の余地はあるんじゃないかと思いました。例えば、ふるさと納税もされているかと思うんですが、それぞれの単品ではなくて、例えばいろんな産品をリレーするような形での商品開発であつたりとかを市の方でまとめてやられることによって、福岡市はいろんな物が揃っているというような理解だつたりとか、イメージに繋がると感じているので、ひとつひとつをブランド化していくこともそうすけれども、多様性を押し出すというところも新しい軸として、検討の余地があるのかなと思っております。

2点目です。一方で都市型であるということも非常に特色の1つかなと思っておりまして、消費地が近いということです。すでに市民農園であつたりとか、地産地消の取組みとかはたくさんやられていらっしゃるかと思うんですが、もうひとつ新しい切り口として、例えば、CSA（地域支援型農業）、消費者さんと生産者さんのコミュニティ型の販売形態みたいなどの成功事例を市が旗を振って何個も作っていくというのもやられてみてはどうかと感じました。

東京都の方ですと、生産者さんと消費者さんが特定の生産された野菜を買うというコミュニティができていて、生産者さんの実際の畑に行って収穫体験をしたり、毎週生産者さんから商品が届いて、お客さんは年間でその野菜を買う、お金を先払いすることで、農家さんの収入になるのが後になってしまうという課題も解決できるような形態があります。もちろん、メジャーではないんですが、都市型農業だからこそできる流通の形態として、模索されてもいいと感じました。

【農業振興課長】

まず、購買層などのデータを踏まえての多様性での打ち出しといった、ご意見につきまして、市場出荷も大事ですが、所得向上に向けてはそういった様々な販路を組み合わせ活用していくことが大事です。ふるさと納税のリレーのような提案もいただきましたが、農家の方にこのようなことにも取り組んでいただけるよう、新たな取組みについて今後研究していきたいと考えております。

都市型のCSAのコミュニティでの販売について、存じ上げていなかったところもありますので、しっかりと研究してまいりたいと考えております。

【会長】

時間も結構押しておりますので、あとお二方にお話を聞きたいと思います。

【委員】

みなさんが言われるように、農業所得が非常に低いということは、まさにそのとおりでございます。諸物価が上がる中に例えば肥料の購入にしても2倍近く上がりましたし、農薬もしかりです。

しかし、農産物は前年比の102%とかそれくらいの数字です。これではどうやっても残っていけないし、3ページにありますように令和3年の農家所得が1戸あたり367万円です。夫婦で働いてもこの価格となると生活ができないのは当然の話であると思います。農

業はやはり個人経営ですので、農業者も考えなければいけない時代になっているんじゃないかと思っています。人と同じ物を作って、同じようなやり方ではそれなりとなります。

また、農業に関心を持っていただきたいということで、体験農園や貸農園をやりたいというような声が上がりますが、農業振興地域においては、駐車場を作ることができない。これが大きなネックになってます。体験農園や貸農園の利用者さんが来られたときに、農道に車を停めると周りから苦情が出たり、農家自体も困っていますので、そういったものに対する緩和策があるんじゃないかと思います。

そして、福岡市では価格安定制度をずいぶん前からいただいています。これは価格を保障してくれるものということで本格的に取り組む若者が多いです。

当初の負担額が、非常に少ないということで、私の家の近所でも新規就農や後継者も利用しています。近所でも成功している農家が多くあります。そういう意味で、やはり価格安定制度というのは是非とも今後とも強化していただきたいし、続けていっていただきたいと思っています。

【農業振興課長】

今ご指摘のありました所得については、費用が上がっている一方、生産物の価格が追いついていないということですが、先ほど申し上げたとおり価格について、適正な価格が広く浸透していくように、まずは市民の方などに生産物のことをよく知ってもらい、価値というものをきちんと認めていただけるような啓発を進めてまいりたいと考えております。

また、体験農園の駐車場については、全国一律の農地制度の中で、こういったところまでできるかということはあると思いますが、農業委員会としっかり連携しながらできることを研究してまいりたいと考えております。

【委員】

1つ質問を、1つ意見をということで短くお話ができればと思います。

1つの質問は、イノシシの被害は減っているということで、具体的に何が効果があったのかを伺いたいです。

もう1つは、今、我々は流通の事業で物流にフォーカスしてやっています、その点でいうと今まで産地だったエリアも住民にしっかり食材を提供してこなかったという反省のもと、産地にあるJAさんも地域の人たちに食べてもらおうと地産地消の取組みを強化しています。それは、品目と年中提供できるかということを含めて再検討が始まっているエリアがあります。そういった意味では福岡市は都市農業ですので、以前から地域で食べてもらう地産地消の取組みが進んでいたかと思います。もう一方でロボットもやっているんですけど、生産性を上げるというのは難しく、小さい農業だと限界があるんですが、その中でも生産性を上げられる方法としては、地域が繋がるということが一番農家所得を増やし、地域の人たちもおいしい物が食べられる。おいしい物を食べるにはチームになるというのが、一番生産性を上げられるんじゃないかと、各地で取り組んでいて思います。福岡市でも、いろんな施策を打たれているんですが、繋がりを作っていくというところに、各施策の繋がり、連携を強めていくというのが1つの意見です。

【課長（イノシシ等地域営農対策担当）】

イノシシの被害が減っているのではどのような対策をとというようなご質問がございましたけれども、福岡市では令和元年度から３年度にかけましてイノシシの被害対策の専任組織を設置いたしました。その中で、国費を活用しました侵入防止柵の設置の支援、箱わなの導入支援、有害鳥獣の捕獲実績に応じた報償金の支給などの取組みをまず進めたところと、市独自の上乗せ報償金の支給、捕獲にあたっては猟友会の方々にもご協力をいただいております。その負担軽減のため冷凍保管庫を活用した処分方法の導入、捕獲通知システム等による捕獲活動の効率化、また、農地の自衛に取り組まれている農家の方への支援ということで、狩猟免許取得の費用の支援など、いろいろな取組みを進めさせていただいたところです。

被害額の方は順調に減ってきておりますが、中山間地域を中心として、いまだにイノシシの被害が継続しているというお声をいただいておりますので、今年度また専任組織を設置させていただきまして、市独自の侵入防止柵の強化支援を本年度追加させていただいた。また、当然地域ぐるみでイノシシ対策というのはやっていかないといけないという部分がございますので、地域主体によるイノシシの潜み場となるやぶの刈り払いや放任果樹の除去等の環境整備の取組みに対する支援を、新たに今年度から取り組んでいるところです。このような取組みを今後も継続しながら、イノシシの被害防止対策に取り組んでまいりたいと考えているところです。以上でございます。

【総務農林部長】

先ほどの〇〇委員の２つ目のご指摘、それから〇〇委員からも同じような都市型農業を活かしてもっと市民との繋がり、地産地消を進めていくべきだというようなご指摘をいただいたかと思います。

福岡市では農家さんと市民とが顔が見える仕組みということで、小学校では学童菜園などで農家さんにご指導いただいたり、あとからぜひ〇〇委員からもご意見を頂戴したいんですが、青年農業者連絡会という農家さんの若手の会の中で直接作ったものを販売いただいて、生産にかける思いなども伝えていただいたりとか、今年は新たな事業として農産物のブランドストーリーを発信していくということで、生産者の思いというものをしっかりと、例えば春菊とかカブとか、その１つずつにかける思いというのを市民の皆様に PR できればと思います。

志賀島という市街化調整区域、とても海がきれいな都心部から 30 分くらいの地域で、今年志賀島で作った野菜をそこに買いに来てもらうという取組みを試行的に始めたところがございます。物流の問題なども大きくなっている中で、やはり市内産を市内で消費していくということに力を入れていくというのは重要だと認識しております。いただいたご意見などを踏まえまして、今後もそういった取組みを引き続き強化してまいりたいと考えております。以上でございます。

【会長】

たくさんご意見をいただいている最中でございますけれども、続きまして林業分野に入らせていただいて、また最後に総括的なご意見をいただきたいと思います。

議題「農林業を取り巻く情勢 農林業総合計画に基づく取組み」（林業分野）について事務局より説明

【会長】

ありがとうございます。

それではただいまの説明に対してご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【委員】

長期的な 100 年後の姿を市民に分かりやすい「みんなで守り・楽しみ・活かす都市・ふくおかの森づくり」という言葉で示し、その中で、5つの方向性と施策を展開していく計画は、森林は長期性が重要ですので、よい方向性だなと感じています。その中で、意見・質問します。

57 ページの森林の荒廃を防ぐ取組みについて、間伐等の手入れが不十分な森林が全国的に増え、福岡市も、強度間伐を平成 20 年度より現在まで 1,382ha 実施しているという説明でした。間伐前と間伐後 15 年経過した写真は、下層の地べたが真っ暗で植生が生えていない林が、強度間伐によって下層植生が生えている理想的な姿の写真になっていますが、いろいろなデータを見ると、針広混交林化は、どこでも同じように写真のとおりになるわけではなく、場所によってはなかなか難しい面もあると聞いています。1,382ha のうち、現状はどのような感じなのか、その辺りの状況を確認したいのが 1 点です。

また、58 ページは、スギ・ヒノキを伐採してヤマザクラなど広葉樹へ植え替える取組みですが、この広葉樹の植林も、苗木の確保やその後の下刈り等、スギ・ヒノキ人工林よりもさらにコストがかかって容易でない部分があると聞いていますが、植栽のその後の状況について、情報があれば教えていただきたい。以上 2 点です。

【森づくり推進課長】

まず 1 点目ですが、ご指摘のように、日当たりの状況や場所によって、成長度合いは違うと思いますが、網羅的に調査した実績はありませんので、今後そのような観点での調査について検討したいと思います。

2 点目ですが、広葉樹にはスギ・ヒノキのように一般にコンテナ苗というものはありません。今は特注で生産してもらっている状況です。昨年度は早良区椎原において広葉樹苗を 3ha に約 8 千本くらい植えておりますが、特注生産ですので、規模を拓げるには広葉樹のコンテナ苗生産の強化などを考えていく必要があると考えています。

【委員】

針広混交林化については、間伐だけではなかなか難しいところも、間伐を繰り返して広葉樹を導入するというのも 1 つの手ですが、そうすると下層にしか入ってきません。針広混交は林冠層という高い位置に針葉樹と広葉樹が並ぶのが理想的です。そういう森を仕立てるためには、間伐よりもさらに大きめの、主伐・皆伐まではいかない択伐で小さな穴をバンバンとあけていくようなモザイク林的な整備をしないと、なかなか理想的な針広混交

林はできにくい。今後、強度間伐、そして択伐を含む主伐を絡めて、より多様な森づくりも試行していただけたらと思います。

【委員】

56 ページの境界明確化に関して、なかなか他の市町村が取り組んでいない中、福岡市は令和3年度、4年度、今年度としっかり取り組んでもらっていることは、本当に評価したいと思っており、引き続きしっかりと取り組んでいただくよう要望しておきます。

次に質問ですが、意向調査の結果で、管理困難のため誰かに委ねたいという方が47.6%となっていますが、この方たちに対して、57 ページの森林経営管理制度の図にある対応になっていくと思いますが、現在どういう状況なのか、まだ取り組めていないということであれば、今後どういうスケジュールで、いつ頃から委託を受けて対策していこうと考えているのかを教えてくださいたいと思います。

【森づくり推進課長】

境界明確化については、令和3年度に西区金武地区から実施しております。記載のとおりですが、所有者自体が音信不通で見つからないという場合も多くありますが、それでも6割弱から境界同意を得て境界明確化ができたという実績がありますので、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

また、意向調査の結果を受けてこれからどうするのか、ということについては、一部ですが、県の森林環境税を活用した森林環境整備事業に誘導した実績があり、最終的にはそちらの方で、強度間伐を、所有者の同意を得て行っていきたいと考えております。

また、一部は施業を集約化し、森林組合など経営できるところにお任せしたいと考えておりますが、今のところ実績はありません。

【委員】

同じく56 ページになりますが、意向調査の結果、4割の方が回答がなく、連絡もつかない方がいらっしゃるということで、森林を相続等で取得された方で、どうしていいかわからないという方もいらっしゃる中で、福岡市の1つの特徴として、所有者が持っている面積が少なく経営にのらないという話を聞いたことがあります。

木材の市場価格が低迷していて出荷もできないということと、林業に従事される方も少ないということで、今後、管理という意味で集約化して経営にのせるようなサポートも必要かと思いますが、その辺りについて聞かせてください。

【森づくり推進課長】

意向調査につきましては、56 ページにあるとおり、森林経営管理制度に基づいて令和元年度から開始したところです。これについては、57 ページの図「森林経営管理制度とは」でも最終的に市町村が管理することとなっています。

この出口としては、先ほどご説明しました森林環境整備事業で強度間伐を実施して森林を整備することを考えているところです。

この制度とともに創設された森林環境譲与税については65 ページをご覧ください。

国からの森林環境譲与税は、森林整備や木材利用に活用する目的税ですが、令和4年度は福岡市に1億9,400万円譲与されており、有効に活用しているところです。この中において、森林経営管理制度には約3,000万円を充当し実施しているところです。

今までなかった財源ですので、有効に活用しながら森林の管理についてもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

【委員】

福岡市の森林行政には森林組合としては非常に助かっているところです。境界の明確化に関しては、実は今年初めて森林組合が組合員に配当をしたのですが、住所不明の方が十数%くらいおられ、調べようもない。集落の方をお願いしても分からない状況で、非常に困りました。また、林道については、森林基幹道早良線約15kmが令和2年度に完成し、曲渕ダムから椎原まで造っていただきましたが、それにつながる縦の線となる作業道を、軽トラックが通るくらいの幅でもよいので伸ばしてもらえると非常に助かると思っています。また木造公民館の整備や区役所窓口の木質化に対しても感謝しています。さらに林業振興に取り組んでいただくよう要望します。

【森づくり推進課長】

基幹林道については、資料に記載のとおり令和2年度に整備完了しています。那珂川市と早良線を結ぶ林道については、県のほうで検討が進められており、市も一緒に検討しているところです。

公民館の木造化については、市民局が来年度以降、アイランドシティに木造公民館の整備を検討しており、そこに市産材を活用できるよう農林水産局で調整を行っております。

【会長】

ありがとうございます。

先ほど意見を止めたもので、農業分野について〇〇委員にもご意見をいただければと思います。

【委員】

資材価格が高騰し、その結果、農業者の所得は減少している。これをどうするかが重要な政策課題かと思います。1つの方法として、市役所内の連携強化を進めることによって、農業者に対する肥料価格を下げることはできます。ご承知のとおり、JA全農ふくれんは福岡市と連携し、和白の水処理センターから回収した再生リンを肥料原料として使用することで、従来に比較して2～3割安く肥料を供給しています。そのような取組みについて、福岡市は和白水処理センターだけではなくて、東部水処理センターなど、いくつかの水処理センターを持っておられますので、道路下水道局との連携して、再生リンによる肥料供給を強化していただけないでしょうか。

その際、道路下水道局はリンを回収しても、本当に農家に使ってもらえるかと心配していると思います。

そこで、農林水産局あるいは農協から、そのような肥料を供給して欲しいと強くアピー

ルすれば、供給すべきかどうか迷っている道路下水道局を後押しすることになります。農協も一緒に言うていただければ、安いリンが入手しやすくなります。道路下水道局とも、これまでも連携されていると思いますが、さらなる連携の強化をお願いできないでしょうか。

【農業振興課長】

ご意見をありがとうございます。

今ご紹介がありました「ふくまっぷ neo」は、和臼の水処理センターで下水処理を行い、有機リンを抽出したのですが、全農ふくれんさんと共同で「e・green(イー・グリーン)」という肥料を商品開発していただいております、これを活用する事業を今年度、資料でいうと70ページになりますが、真ん中に地域資源活用型農業チャレンジ事業、こちらは3つのチャレンジを支援していますが、一番左の肥料について「e・green(イー・グリーン)」を今年度農家さんにモニターで使っていただいて、その効果についてPRを行い、普及、拡大をしていこうと現在取り組んでいるところです。

また、今後も道路下水道局と連携しながらいろいろな取組みを進めていけたらと思っております。

【会長】

福岡市農業協同組合も、「e・green(イー・グリーン)」をPRさせていただいて、地区を回った時に、農業者から質問があり、例えば、あれを1年置いたときに、湿気をどう呼ぶかとか、機械で撒きやすいのかとか、そういう質問も出たりしたもので、データ分析などをさせていただいています。今使用されている方には、好評であると報告を受けています。

今のご意見のとおり、やはり循環型農業といった形で取り入れていくのを推進していきたいと思っております。よろしくお願いします。

【委員】

行政の各局が横と横の連携をしながら実践していることが見える化するような文章を残して整理していただきたいです。

【委員】

このような取組みは、全国でも数少ないです。神戸市でやっていますが、神戸市と福岡市くらいです。先進的な取組みです。市長がプレスリリースされていることは知っていましたが、この先進的な取組みについて、市民に強くアピールすると、もっといいと思います。

【農業振興課長】

ご意見ありがとうございます。先進的な事例ということで他都市からの視察などの際に私ども農林水産局も道路下水道局と一緒に対応させていただくなど、協力、連携を図っているところです。まずは皆さんに知っていただくことが重要であることから今後もしっかりPRの方を行ってまいります。

議題「意見交換テーマ『スマート農業の推進』」について事務局より説明

【会長】

ただいまのスマート農業についてご意見をいただきたいと思います。

【委員】

スマート農業、都市農業に関しては、ロボットを使ったり、機械化にするメリットは限定的になってしまいますので、どちらかというところ、しっかりデータをもって、栽培を改善していくというところを強化されるといいと思っています。

なので、小さい農地でどう高回転に栽培できるかとか、肥効とか植物をしっかり見ながら、1グラムも無駄にせず、高効率なアウトプットができるようなデータを活用した最適化農業をしていくと、全国に都市農業の地域がありますので、福岡が先駆けてそういう体系をつくられるとお手本になって先駆的な取組みが生まれてくるんじゃないかなと思っています。

【農業振興課長】

貴重なご意見ありがとうございます。

スマート農業とか新しいもので、すごい技術みたいなものを連想してしまいがちですが、まず、データをしっかりと把握して無駄がない効率的なやり方というのを考えていく、技術の前段階のところからしっかりと今の作業と向き合って、どういったものが必要になってくるかを見極めることが大事であることを改めて認識したところでございます。

今後ともご意見を踏まえ、協議会の中でしっかりいいものを見定めていって、実装に進めていけたらと思います。

【会長】

各団体の方から取組みについて、ご報告される点がございましたら、ご意見をいただきたいと思いますがどうでしょうか。

【委員】

食の中村ということで、地域の特に福岡市、福岡県の食材を扱った商品開発をさせていただいております。先日も帝国ホテルの料理長さんと、うきは市、上毛町、福岡市の食材を使って、メニュー開発や商品開発をさせていただきました。何かお役に立つことがあればぜひ、中村大学にお声がけいただければ、協力させていただきます。

また、本学園の中に事業部があり、レストランや給食施設もありますので、お声をかけていただければ一緒に開発できるかと思われます。

【委員】

先ほど〇〇委員からデータ改善から始めるというところでお話がありましたが、高知県では、スマート農業でビッグデータを集めるというところから改善を進めているケースがあります。高知県も九州大学とも連携しており、横の連携展開も前提に展開しておりますの

で、訪問されたいということがありましたら、お声がけいただけたらと思います。

【会長】

最後に自分の意見として、このように皆さん方が審議会の中で協議されているのを初めて目の当たりにさせていただいて大変活発な意見が出て、ありがたく思っている次第です。

私も JA の代表として各地域の農業を見てますと、この資料にありますように農家の従事者の年齢が 74 歳と書いてあります。その現状と、14 ページで部会数の記載がありますが、半分ぐらいが普通作で米作りの農業者です。5 年もしたら農地が守っていけないというような状況を目の当たりにしています。地区説明で話に行くと、農協のファームで作ってくれないかというような話を聞くことが多くある状況です。

そういう部分も市民の皆様方に理解をいただいてこれからの水田農業というものにも感心を持っていいただければ幸いかと思っています。

先日の NHK の特集でも農業米作りについて報道がありましたように現状もそのような状況だと私も把握しておりますので、どうかこのような審議会の協議がますます活発になって福岡市がより良い都市となっていくことを願ひまして、簡単ですが、私の意見を述べさせていただきます、事務局にお返しします。

今日はありがとうございました。

【総務農林部長】

会長、議事進行ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、長時間のご審議ありがとうございました。

本日、農業に関しましては、所得向上に向けた取組み、農家さんの支援、人材育成に関するご意見、地域資源のさらなる活用、また、福岡市らしい都市型農業の推進ということで多様性の打ち出しであるとか、市民と農家の繋がりなどコミュニティ型による販路拡大、インバウンドへの PR など、様々なご意見を頂戴いたしました。

また、林業に関しましては、主伐による多様な森づくりの推進や森林管理の強化に向けた境界明確化の取組み、作業道の整備、市産材の活用などのご意見をうかがえたと思っております。

また、最後のスマート農業に関しましてもデータの活用、また、事例のご紹介などもいただき感謝申し上げます。最後には、中村学園との今後さらなる食関連の連携や福岡市の PR 不足に関するご指摘などたくさんのご意見をいただきまして、さっそくすぐに始められるものもあるのではないかと考えております。

本日いただきました貴重なご意見を踏まえまして、さらなる福岡市の農林業振興に向け、議会のご支援もいただきながらしっかりと取り組んでまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

最後、事務連絡でございますが、本日の議事録につきましては、福岡市情報公開条例に基づき公開することとなっております。事務局において本日の議事録を作成し、委員の皆様にご確認いただいたのち、福岡市のホームページにて公表させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして令和 5 年度福岡市農林業進行審議会を閉会いたします。本

日は、どうもありがとうございました。